

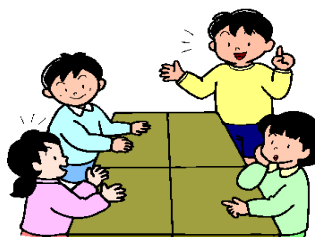
1 問題解決的な学習の基本過程

思考を活性化し真剣に課題に立ち向かう学びを問題解決的な学習で！

昨年、中教審教育課程企画特別部会から「論点整理」が出されました。その中で「課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」の重要性が述べられています。その根底にあるものは**思考を活性化し真剣に課題に立ち向かう学び**です。「この課題を解決したい」「これができるようになりたい」・・・と意欲をもちながら学習に取り組む子どもは、自分のもてる力を駆使したり、友達と知恵を出し合ったりして課題を解決する過程で、時にはそれまで以上の力を発揮します。このような学びの姿を問題解決的な学習を通して子どもたちに実現していきましょう。

問題解決的な学習のよさ

- ◆ 学ぶことの楽しさや達成感を体得することにより、主体的に学習する態度が養われます。
- ◆ 問題を解決する方法等を学び、他の場面にも活用することができるようになります。
- ◆ 自分で考え調べ獲得した知識や技能は確実に身に付きます。
- ◆ みんなで協力したり、グループで活動したりすることにより人間関係が深まります。



段階	問題解決的な学習の仕方	子どもの見方・考え方の例	関連
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たなことに出会いそれまでの経験や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い、本時の課題をとらえる。 	「ここから先は、どうなるのかな」 「～と～が違うのはどうしてだろう」 「～になるのはきっと理由があるはずだ」 「～というきまりがありそうだぞ」 「できる、できる、あれ？今までと違うぞ」 「～しないで問題を解くなんて、できるのかなあ」	P.9 P.10
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項や生活経験を基に見通す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解決の方法を見通す。 ・ 答えの見当をつける。 ・ 調べる視点をもつ。 ・ 学習活動の筋道をもつ。 	「～の方法でやれば、できるかもしれない」 「答えは～となるはずだ、確かめてみよう」 「～のように調べれば、何か決まりが見つかるかも」 「きっと～じゃないかなあ」 「このあたりから調べると分かるんじゃないかなあ」 「前に～と考えてできたから、同じように～してみよう」 「わたしだったら～する」	P.9
展	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもとに課題解決に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートや資料を活用し、必要な情報を集める。 ・ 自分の考えをもつ。 ・ 試しにやってみる。 ・ うまくいかないところを修正する。 ・ 分かったところと分からないところを整理する。 	「使えそうな資料はないかな」 「教科書をよく読んで、大事なところに線を引いてみよう」 「言葉の意味を辞書で調べてみよう」 「前にやったことをノートで見てみよう」 「まず、こうやってみよう」 「図や表に表してみよう」 「説明できるように、言葉に表してみよう」 「ここまではできたけど、ここから先がわからない」 「できた！他のやり方でもできるかな？やってみよう」	P.11 P.12
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に向けて話し合い、思考を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の考えをよく聞く。 ・ 自分と違う考えを理解する。 ・ 解決方法の内容を理解する。 ○ 思考を吟味する中で課題解決する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正誤を確かめ、意味や理由、関連等を考える。 ・ 規則性を見付ける。 ・ 自分の考えを見直して再構築する。 ・ より分かりやすい表現にする。 	「○○さんの考えとぼくの考えは同じだ」 「△△さんの意見は、～が同じで、～が違う。なぜだ？」 「□□さんに続けて言うと～ということになります」 「こういう考えもあるんだな」 「それはどういうことですか？」 「そういう意味か」 「こういう理由だったのか」 「～と～は、ここですつながっているのか」 「～をずっと見ていくと～というきまりがある」 「なるほど、～は～ということか」 「～は、～と表すともっと分かりやすいと思う」	P.13 P.14
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返る活動により、学習内容を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題について分かったことを自分の言葉でまとめる。 ・ 分かったことを広げて考える。 ・ 分かったことを生かして適用問題を解く。分からないことは質問する。 ○ 次時への意欲付けを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解決されていないことを明らかにし、次時の学習の見直しをもつ。 	「あの言葉とこの言葉をつなげて、まとめてみよう」 「話したことをかいてみよう」 「今日分かったことは、～にもつながっているね」 「さっきの考え方を生かして問題をやってみよう」 「ねえ、どうしてこうなるの？」 「あれ、これはできないぞ。次の時間に考えてみよう」 「ここまでは分かったけど、ここからどうなるのかな」	P.15 P.16
	※ 授業によっては適用をまとめの前にもあります。		

2 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント一覧

先生方が日々の授業を振り返る際や校内研修の資料としてご活用できるように、「授業づくりのポイント」を示しました。詳しい内容については、冊子の該当ページをご覧ください。
また、自己の重点の欄は、日々の授業や校内研修等で重点を定めて取り組む際に、ご活用ください。

大項目	細目		ページ	自己の重点	
単元構想	単元	単元のねらい	単元のねらいをとらえた系統性や関連性等のある単元を構想する。	P. 3 P. 4	
		実態把握	普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行う。		
		評価計画	目指す子どもの姿を具体的にとらえ、指導に生かせる評価計画を立てる。		
授業設計	本時	整合性	単元のねらいから本時のまとめまでの整合性を図る。	P. 7 P. 8	
		手立て	子どもが課題をもち、解決に取り組むための具体的手立てを講じる。		
		板書計画	子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画を立てる。		
指導	学習課題	設定	子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定する。	P. 9	
		見通し	子どもたち自ら解決の見通しをもてるように、課題解決の方法や調べる視点等をもたせる。	P. 10	
	働きかけ	発問	考える視点や方法、手がかりを明確にもたせるとともに、思考を促す発問を行う。	P.11 P.12	
		見取り	適切な机間指導により、子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かす。		
		支援	一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じる。		
	学び合い	コーディネート	個々の考えの見取りを生かして、子どもの発言をつなぐ働きかけを意図的に行う。	P.13 P.14	
		交流活動	課題解決に向けた話し合いを行う中で、一人一人の考えを共有・吟味する。		
		グループ活動	グループ活動では、目的を明確にしてそれに合った活動を取り入れる。		
	学習のまとめ	振り返る活動	課題との整合性を意識しながら、学習内容の定着を図る「振り返る活動」を行う。	P.15	
		ノート指導	学習を振り返ることができるノートになるよう、適切な指導を行う。	P.16	